

滋賀県立近代美術館協議会(第37回)概要

1 開催日時：平成25年(2013年)11月14日(木)午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所：滋賀県立近代美術館 会議室

3 出席者：滋賀県立近代美術館協議会委員 10名

上野真知子委員 大西健之委員 小谷惇子委員 辻喜代治委員 辻村琴美委員
別府博委員 三原サダ子委員 柳原正樹委員 山口育子委員 吉岡千恵子委員
関係者

滋賀県総合政策部 宮川管理監（「美の滋賀」発信推進室長）

滋賀県立近代美術館事務局

秋山館長 竹内副館長 高梨学芸課長 日野総務課長

桂田文化振興課長

4 会議次第

(1) 滋賀県立近代美術館 秋山館長 あいさつ

(2) 議 事

① 委員の辞任および後任委員の就任について

② 滋賀県立近代美術館条例の改正について

③ 新生美術館基本計画素案について

5 概要

① 委員の辞任および後任委員の就任について

○尾崎正明委員(前会長)の辞任に伴い、滋賀県教育委員会の任命により柳原正樹氏がその後任として委員に就任された。

○委員の互選により、柳原正樹委員が会長に選出された。

② 滋賀県立近代美術館条例の改正について

○滋賀県立近代美術館条例の改正により、当協議会に部会を設置できることとなったことを受け、「滋賀県立近代美術館協議会収蔵品収集審査部会」を設置することを可決、併せて「滋賀県立近代美術館協議会収蔵品収集審査部会設置要綱」についても可決、制定された。

○「滋賀県立近代美術館協議会収蔵品収集審査部会」に属すべき委員および専門委員は、滋賀県立近代美術館条例第15条第2項に基づき次のとおり会長から指名された。

・委員：柳原正樹（部会長）

・専門委員：加藤類子、河本信治、島敦彦、廣田孝、山脇佐江子

③ 新生美術館基本計画素案について

委員から次のような主旨の意見が述べられた。

【委員】

○11月3日に開催された県民フォーラム「明日の美術館をつくろう」に参加したところ、思ったより多くの方が参加されていた。参加者からは美術館への期待、そして、もっとこうの方がとの意見が活発に述べられた。これは皆さんの、現状を何とかしないといけないう意思表示ではないか。新生美術館が、皆さんの思いが反映されたことを実感できるようなものになってほしい。

○ネーミングは非常に重要であると思う。日本全国に知らしめるような、人目を惹いて、かつ中身をしっかりと表すようなネーミングにしてほしい。

○私は、新生美術館をつくる目的は、滋賀県のすばらしい美術を次の世代に引き継ぐことだと思う。子どもや赤ちゃん連れで来やすいようにしていただきたい。私たちは次世代への引継ぎ役をしているという感覚でいれば良いと思う。私はこのように思うが、新生美術館の目的は何だと聞かれたときに、明確に答えられるような、そういうものをコンセプトとして打ち出していきたい。

【委員】

○新たな魅力として、琵琶湖とか比叡山の眺望も挙げていただいているが、来館者の裾野を広げるためのひとつの対策になるのではないか。そこから裾野に根っこが生えたら、リピーターになってくれることを願う。

【委員】

○美術館の目的は永続的発展につながる場所であると思う。おじちゃんが孫を連れて来て、美術館が楽しいところであり、また、反対にここは静かにしなければならないことを、優しくきっぱりを伝えていく場所であってほしいと思う。

○キッズルームというのは、子どもだけが遊ぶ場所というのではなく、3世代が一緒に遊べるようなスペースにしていただきたい。

○3世代が永続的に発展するためにも3世代が集まれる場というところをアピールしていただきたい。おばあちゃん、おじいちゃんがここに孫を連れてきて、思い出ができ、おばちゃん、おじちゃんの思いも孫に伝えていけるような場となってほしい。

○版画家の方から、若手の作家の発表の場がないので、若い人を育てるためにも、発表の場として利用できるようにしてほしいという意見をいただいていた。

【委員】

○シニアの方はあまり努力しなくても展覧会に来てくれると聞いたことがあるが、そうでもないのではないかと。シニアの方を対象とした対策も必要になってきていると思う。

○定年退職後に何か始めたという方が増えてきていると思う。そうしたシニアを意識した対策も考えてはどうか。

【委員】

○収蔵品を平成17年以降購入していないということであるが、常設展を充実させるには、やはり収蔵品の購入が必要であり、それがないとベースになる集客ができないのではない

か。収蔵品の購入をコンスタントに行っていたきたい。

○近代美術館と琵琶湖文化館のベースを引継ぎ、近代美術と仏教美術については、基本的にはそのベースは出来上がっているものと思われるが、問題は、アール・ブリュットをどう充実させていくかということだと思ふ。優秀な学芸員を確保し、中身の充実したものにしていていただきたい。

○アクセスが悪いと言われるが、魅力ある美術館にするためのアクセスとして捉えてほしい。たとえば、瀬田駅を利用される方がほとんどであると思われるので、駅からここまでの間、200mから300m間隔に野外彫刻を点々と並べ、駅を降りたら、すぐに美術館につながるんだというようなイメージの湧くアプローチを考えてほしい。

【委員】

○3本柱は、新生美術館にとってそれぞれ大事なものだと思う。特にアール・ブリュットは、注目が高まってきており、アール・ブリュットを新しい美術館のコレクションの柱とすることは素晴らしいと思う。さらに、柱のメインに据えることができれば、マスコミ等へのアピールも強いものになるのではないか。スイスのローザンヌのアール・ブリュット美術館のコレクションには圧倒されてしまう。あのような空間が滋賀県にもできればと期待している。

○展覧会の企画は、この作家のここを見せたい、ポイントはここなんだということを、企画する側が明確に持っていないと30万人を呼ぶというのは難しくなるのではないか。

【委員】

○学校教育において、学力調査の結果に見られるように、国語、算数が話題になることが多く、図工、美術の学習が忘れられているのではと感じることがあるが、この新生美術館の計画を心強く思っている。

○毎年夏に近代美術館のギャラリーを借りて、「滋賀の子ども秀作展」を開催している。子どもたちに、「この作品は来年の夏に近代美術館で展示される。」と伝えると、飛び上がるように喜んでくれる。近代美術館が、子どもたちがどんどん足を運んで、美術に親しんだり、自分の作品がそこにあたりするという、そういう喜びの場となるような美術館になってほしい。

○滋賀県には非常に多くの文化財があって、ひとつの仏像だけでも、他県に持って行けば、たくさんの方が集まるということである。こうした滋賀県の魅力をもっとしっかりと発信して行ってほしい。

○特別支援学校の生徒さんの作品で素晴らしいものがあつた。子どもたちの美術への新たな窓口としてアール・ブリュットを進めていこうということには大賛成である。

【委員】

○県展を一期に開催できるようになることは喜ばしい。

○もう少しギャラリーのスペースを広くなればという願いを持っている。創作している人たちが近代美術館で展覧会を開きたいと思えるような場所にしていきたい。

○草津駅から乗車したタクシーの運転手さんが近代美術館を知らなかった。もっと広報に力を入れていただきたい。

【委員】

○新生美術館ができることを機に、テレビなどのマスメディアを利用した広告をすとか、看板を作るとか、見てすぐ近代美術館と認識できるよう戦略的な広報をやらないといけな

いと思う。当協議会に部会が設置できることとなったが、人の招き方とか、先ほど意見があった展覧会のポイントをどこに置くかということについても部会を置いて検討できるようにするなど、部会活動を活発にしていくのも、わたしたち協議会の役割かと思う。

【委員】

○柳宗悦の展覧会は2年前に大阪で開催されている。そういうことが捉えられていない。滋賀県の中だけを見てはいけない。美術館をつくる前に、全体を見渡す、そういう作業を早急にする必要があると思う。

○陶芸の森という専門館を作ったことで、近代美術館の工芸部門が衰退したのではないかと考えている。工芸ファンが減ってしまったのではないかと考えている。近代美術館に行ったら、工芸や陶芸、その他いろいろなものが見られるという、そうしたことは大事なことであり、それがいろいろな新しい美術を生んで行くことになる。

○美術館の新館予定地が前の道路まで延びたことは、ものすごく良いと思う。道路からお客さんを招き入れる発想は絶対に必要なことだと思う。

○現状では、滋賀の作家も、発表は京都でやっている。美術館と美術の現場がすごく離れてしまっている。職員と作家の間に交流がなくなっており、特に滋賀県の場合、出会える場所がないこともあって、美術館の職員が事務的に展覧会の企画をしているような状況では美術館としてよくない。ここで大きく発想を変え、美術館の整備と同時に、開館までの4から5年間の間で、滋賀県全体での美術の状況を変えるような取組が必要ではないか。たとえば学芸員が京都のギャラリーに出かけて情報を収集することを義務づける。それも、仕事の時間内に組み入れられるような仕組みが必要と思う。そして学芸員室でその情報を交換して共有してはどうか。

【委員】

○美術館の集客にとって、広報の持つ役割は大きい。滋賀県の場合は、近隣に人口の多いところを抱えているので、どのように情報を発信していくかということが今後の課題になるような気がする。

○他の美術館が建て替えられることとなり、この素案のようなものが作られたが、当初は、イメージを語りすぎるあまり、具体性に欠けるといふところがあった。今後は、当素案に如何に具体性を持たせながら、この新生美術館基本計画を進めていくかということが課題となっていくのではないか。

○僅かな経費で成果を上げることができた経験がある。これからの美術館というのは、どういうマネジメントで生きていくかということが重要であると思う。この素案で柱のひとつに挙げられているアール・ブリュットについては、国でも推進しようという雰囲気があるので、国にもどんどん相談されて進めれば良いのではないか。

④ その他

美術館運営について、次のような主旨の意見が述べられた。

【委員】

○夏にポップの目を見に来た。ちょっと来てちょっと見て帰るつもりだったが、予定を延ばしてキャプションも全部読んでしまった。キャプションがすごく良くできていた。この展覧会については、観覧者数が目標を上回ったということであり、地味でも中身の濃いものをする、

やはり多くの人に来てくれるのだと思う。すごく満足のいく展覧会であったことをお伝えしたかった。

【委員】

○先ほど、比叡山とか琵琶湖の眺望の話もあったように、この景観をいかすような施設にしていきたい。また、レストランとかカフェを備えていただきたい。絵を見てそのまますぐに帰るということでは、ちょっと寂しい感じがする。絵のあとの余韻を楽しむということもあると思うので、そういうことについても考慮していただきたい。

【委員】

○富山県水墨博物館に行くといつもバスが多いように思うが、どういうことなのか。県外から来られているのか。

【委員】

○県外の方が多い。県内の方のためには、水墨美術館は駅から少し離れているので、バスの運行をやっている。富山県内にある文化施設、博物館に限っているが、駅を拠点にミュージアムバスと呼んでいるバスを、1時間に1本走らせている。県と市が費用を出し合って運行している。